国別ジェンダー情報整備調査【ブラジル】(2007)

ブラジルの女性の概況

- ◆一般的に男性は「強いもの」と見なされており、若い世代では変化があるものの、女性には妻・母の役割を重要視する傾向にある。
- ◆ブラジルにおいてはジェンダー差別だけでなく、人種差別も存在するため、黒人女性はより脆弱な立場にある。
- ◆女性の平均寿命は 76.38 歳で男性(68.3 歳)よりも長い、白人女性と黒人女性で比べると黒人女性の寿命の方が短い。
- ◆調査によれば女性の5人に1人が男性から何らかの暴力を受けたことがある。そのうち3分の1が身体的暴力を受けたことがあると答えている。
- ◆2006 年に女性に対する暴力防止法「Meria da Penha's Law」が施行された。
- ◆1932 年より、女性にも選挙での投票権があった。

ジェンダーに関する政府の取り組み

- ◆北京女性会議での行動綱領を受けて、政府は 1997 年にジェンダーに関する政策を発表した。
- ◆女性に対する暴力に関する取り組みとして、暴力被害者をケアするためのガイドラインを作成した。そこではシェルターを増やすための予算の割り当てや刑法改正への提案、人権問題への関心を高めるためのキャンペーンにも言及している。現在、全国にシェルターや女性相談所、暴力被害者向けの交番がある。
- ◆1997 年に施行された法律において、選挙での女性候補者を最低 30%とすることが決定された。(実際はまだ達成されていない)

ナショナルマシーナリー

- ◆名称: 女性政策のための特別事務局(SPM)
- ◆女性に関する政府の政策を計画・実行するため、各省庁や機関をコーディネートする。

教育分野におけるジェンダー

- ◆識字率は男性 88%、女性 89%である。
- ◆この 30 年ほどで女性の就学率は改善され、専門職に就く割合も上がっている。
- ◆初等教育就学率は男女ともに 90%以上と見積られる。中等教育は女子 78%、男子 73%、高等教育では女子 11.3%、男子 8.3%であり、就学年数は女性のほうが長い傾向にある。2002 年の調査によると 11 年間以上の教育を受けている率は女性 37%に対して男性 26%である。
- ◆文系を専攻する女性は 50%を超えるが、理系は 20~30%である。また専門職に就く女性は男性より平均年齢が若い傾向にあり、例えば弁護士や裁判官の女性は平均 39 歳以下である。
- ◆調査によると、第 4 学年修了段階では女子の方が男子より読み書き能力が勝っていることがわかる。

保健分野におけるジェンダー

- ◆妊産婦死亡率は 2000 年以降上昇傾向にあったが(2000 年 52/2004 年 54)、2005 年に 35 まで低下した。その一方で、別の調査では妊産婦死亡率は 75.3/100,000 との結果もあり、報告されていないケースもあることが推測される。
- ◆政府の貧困削減プログラム Bolsa Familia では妊婦や乳幼児へのヘルスケアへの取り組みも盛り込まれている。
- ◆保健省は 1999 年に性暴力防止、被害者のために自治体向けの技術的ガイドラインを発行した。

農林水産分野におけるジェンダー

- ◆多くの女性が農業に関わっている。憲法で男女平等が保障されているにもかかわらず、女性は土地所有やマイクロクレジットへのアクセスが限られているため補助的な役割に留まっている。
- ◆女性は自分の名前で農場や農地を登録できなかったが、2004 年の農業改革によって、男性と同じ権利を得た。

経済活動分野におけるジェンダー

- ◆2002 年の統計によると女性の 50.3%が労働市場で働いている。
- ◆黒人女性の 23.9%がメイドとして働いている。
- ◆現在、女性には 90 日間の出産休暇が認められているが、180 日間に延長する案が議会で話し合われている。男性の育児休暇は 5 日間であり、出生届提出に利用されることが多い。
- ◆一般的に女性の賃金は男性より低く、男性の半分である。一方で黒人女性の賃金は白人女性の半分である。
- ◆男性世帯主の出稼ぎによって、女性世帯主世帯が増えているが、生活状況は厳しい。最低賃金の半分で暮らしている。